

## 権利と義務

四国経済連合会副会長  
(株エヌ・ティ・ティ・ドコモ四国社長)

西邑 省三



学校における問題として、長らく「いじめ問題」が世間を賑わして来たが、昨今はそれに加えて「学校給食費の不払い問題」「保育費の不払い問題」が新聞紙上やテレビのニュースに取り上げられる事が多くなっている。「いじめ問題」に対しては学校の先生方の指導力の低下や、家庭教育の欠如が議論される事が多い。しかしながら「学校関係費用の不払い問題」は「保護者」に支払い能力が無い場合は僅かであり、「保護者」のモラルの低下と思われる場合が大半であると言われている。学校現場では「給食費の不払い」があってもその児童に給食を与えない事が出来ない現実があり、「保護者」はその現実を承知の上で払わない人が増えている模様である。

戦後の日本の教育や社会で強く叫ばれて来たのは、それまで抑圧されてきた「個人の権利」を取り戻す事であったと言われている。それはそれで正しい事であるが、一方で「権利を守る事」と「義務を果たす事」が常に「表裏一体」である事を教えて来たのであろうか。この事は先生方の指導力や親のモラルの問題と非難するだけで済む問題ではないと思われる。社会的に指導的立場にある経営者でありながら「財テ

ク」と称して「脱税まがい」の行為をしていた経営者が多数いたのではないか。企業が「法人」として日本の国で企業活動をするために「国や地方自治体の行政サービス」を受ける権利があり、また現実を受けている。同時にそのためのコストを「税金」の形で貢献する「義務」もあるはずであろう。

また、新しいビジネスモデルだと「もて囃され」ていても、脱法行為があったり詐欺まがいの事件になる例も数多くある。全てが同じものとは言えないが、多くの場合に共通して言える事は社会的に指導的立場にある経営者自身に「モラルの欠如」があったり「権利の主張と同時に義務を果たす事」を忘れていてのではないだろうか。

「子供は親の背中を見て育つ」と良く言われる。私たち「大人」は、そして社会的に指導的立場にある企業の経営者は、自らが高い倫理観をもって率先して「モラル」のある行動をすると同時に「権利と義務」が表裏一体のものである事を自ら誠実に実践して見せ、子供たちや社会に対して「良い背中」を見せる事が大切ではないだろうか。